

3 7. 訪問口腔ケア

<到達目標>

- ・ 歯科医師の指示に従って診療できる
- ・ 患者の全身状況を把握できる
- ・ これから行うことの説明ができる
- ・ 必要に応じて器具の準備ができる
- ・ 診療できるように患者の体位を変えられる
- ・ 専門的口腔清掃ができる
- ・ 患者に合わせたリハビリテーションができる
- ・ 患者に合わせた指導が行える
- ・ 後片付けが行える

<設定場面>

歯科医院まで来院することのできない患者に対して、訪問による歯科診療を行う。歯科医師から、口腔ケアの実施を指示された。

<治療手順>

1. 挨拶
2. コミュニケーション、調査・記録
3. 口腔衛生指導・これから行うことの説明
4. 前準備（清掃用具の準備など）
5. 体位（姿勢）を整える
 - ・ 車椅子、または椅子などへ移動して行う
 - ・ ベッド上で行う
6. リラクゼーション
7. 口腔清掃

必要器材：

歯科衛生士が携帯するもの（必要に応じて選択する）…歯ブラシ、ミラー、

ライト、手鏡、マスク、エプロンまたは予防衣、含嗽剤、洗口液、義歯洗浄剤、エタノール、フッ化物、速乾性手指消毒剤、歯磨剤、ワッテ、綿棒、歯冠ブラシ、デンタルフロス、舌ブラシ、ハサミ、ホース、鈴、計量カップ、ペットボトル、血圧計、聴診器、パルスオキシメータ
訪問先で用意していただくもの(必要に応じて選択する)…洗面器、コップ、はき出す容器、義歯容器、手鏡、歯間ブラシ、デンタルフロス、舌ブラシ、タオル、ティッシュペーパー、吸いのみ、敷物、ペットボトルなど

- ・自力で行う方……アドバイスをしながら本人による清掃を支援
- ・自力不可能の方…介助者に説明しながら指導、介助者が行う

8. 専門的口腔清掃（器質的口腔ケア）

相手の右側から行う。

必要に応じて鏡を使用し、口腔内の状況を確認してもらう（片麻痺がある場合は観測に食物残渣が多い）。

含嗽をしてもらい、食物残渣を確認してもらう。

う蝕や歯肉炎などないかライトでよく確認する。また、口腔粘膜の状態や機能を指で触れながら把握する。

歯ブラシをペングリップに持って磨く。口腔内全体を歯ブラシで清掃する（相手のコキュに合わせた歯ブラシテクニックを用いる）。

う蝕の好発部位である歯頸部、隣接面、露出した歯根部などを注意して磨く。

痛いところがないか、確認しながら行う（エアなども使用）。

歯肉から出血する部位は、慎重に磨く。発赤などがあり、痛みのある部位はより軟毛の歯ブラシに変えることも必要である。

歯ブラシに付着した汚れや血液は、コップですすいで落としながら行う（コップの汚れを相手に見せて、きれいになっていくことを確認することが必要）。

含嗽してもらい、必要に応じて本人や介護者に汚れ具合を確認してもらう。

歯間ブラシ、デンタルフロスなどを必要に応じて使用する。

洗浄スプレー（ぬるま湯使用）で歯、歯肉を洗浄する。

歯ブラシで舌の清掃をする。

歯ブラシで口腔粘膜全体を清掃・マッサージする。

在宅介護者や介護者と日常的にできる方法を話し合い、確認してもらい、必要に応じて在宅介護者や介護者にも実践してもらう。

含嗽してもらう。

口腔内の状況をチェックする。

必要に応じて歯面にフッ化物を塗布する。

鏡で口腔内の清掃状態を見てもらう。

9. 摂食・嚥下機能の改善のためのリハビリテーション（機能的口腔ケア）

うがい：口腔内のうがいはブクブクと力強く元気な音が出るように、しっかりと5秒以上行う。のどのうがいについては咽頭部でゴロゴロと元気な音が出るように、しっかりと5秒以上行う。

舌の体操：舌を元気よく前方・右方・左方・上方に回す。動きにくい方向があれば、どの方向が動きにくいかを記録して、そこだけは回数を多く行うとよい。

首の体操：首を曲げると身体も曲がってしまい、効果的にできないことがあることに注意をして首を右方・左方・上方・下方に回転させる。

発声①：姿勢を正して、大きな声でア行をしっかりと正確に、できるだけ伸ばして発声する。

アーーーー・イーーーー・ウーーーー・エーーーー・オーーーー

発声②：姿勢を正して、大きな声で正確にパ・タ・カ・ラを5回ずつ発声する。

パパパパパ・タタタタタ・カカカカカ・ラララララ
パタカラ・パタカラ・パタカラ

10. 説明・指導・相談

日常に行ってもらおう実践内容や問題点を用紙に書いて渡すなど

11. 後片付け

12. 挨拶

※義歯清掃指導がある場合

- ①義歯の汚れた状態を歯科衛生士が把握する。
- ②義歯を外す（自分でできる患者には自分で外してもらう）。
- ③含嗽してもらい、できない患者に対しては術者が洗浄する。
- ④義歯の汚れの状況を在宅療養者や介護者とともに確認する（相手に不快感を与えないように言葉遣いや雰囲気気を配る）。
- ⑤説明（指導）をわかりやすく伝える。在宅療養者ができることや注意すること、介護者の補助が必要なことや注意すること、などを状況に合わせた内容で、押しつけないように伝える（一度にいくつも指導をしないようにする）。
- ⑥義歯を外した後、歯や口腔粘膜全体を清掃する。
- ⑦洗面所や台所などで、清掃用具を用いて義歯を清掃する。なるべく療養者や介護者とともに行き、補助用具の必要性も調べる。
- ⑧義歯洗浄剤を使用する（ぬるま湯を使用し、しばらくつけておく）。
- ⑨義歯がきれいになるのを待っている間に、相手の口腔機能に合わせたリハビリテーションをする。
- ⑩洗浄した義歯を在宅療養者の口腔内に装着する。

参考文献

第2版 在宅訪問における口腔ケアの実際（牛山京子 著）： 医歯薬出版, 東京, p20, p40~41, p59, p76~77, p100, 2007

37. 訪問口腔ケア

必要器材

A. 歯科衛生士が携帯するもの（必要に応じて選択する）

①歯ブラシ ②ミラー ③ライト ④手鏡 ⑤マスク ⑥エプロンまたは予防衣 ⑦含嗽剤 ⑧洗口液 ⑨義歯洗浄剤 ⑩エタノール ⑪フッ化物 ⑫速乾性手指消毒剤 ⑬歯磨剤 ⑭ワッテ ⑮綿棒 ⑯歯間ブラシ ⑰デンタルフロス ⑱舌ブラシ ⑲ハサミ ⑳ホース ㉑鈴 ㉒計量カップ ㉓ペットボトル ㉔血圧計 ㉕聴診器 ㉖パルスオキシメータ

B. 訪問先で用意していただくもの（必要に応じて選択する）

①洗面器 ②コップ ③はき出す容器 ④義歯容器 ⑤手鏡 ⑥歯間ブラシ ⑦デンタルフロス ⑧舌ブラシ ⑨タオル ⑩ティッシュペーパー ⑪吸いのみ ⑫敷物 ⑬ペットボトル など